

令和7年度 フッピートーク 2025 の実施結果

1 概要

令和7年度の市議会の活動を市民に発信するとともに、袋井市について市民の皆さんとのグループトークを通じて意見交換し、今後の市政に生かすことを目的に、「フッピートーク 2025～市議会議員と袋井市の未来を語ろう～」を開催した。

2 開催日時、場所、参加者

- (1) 日 時 令和8年1月24日（土）午後1時30分から午後3時30分まで
- (2) 開催場所 袋井市教育委員会4階 大会議室
- (3) 参加者 市民27人、市議会議員20人 合計47人
- (4) 募集方法 市議会HPでの案内、議会だよりへの掲載及びチラシ配架などにより参加者を募集したほか、新たな取組として、市民300人を無作為に抽出し、参加を呼び掛けた。

3 実施内容

(1) 議会報告

令和7年度の市議会活動状況について、議長が報告をした。

ア 市議会について

イ 予算決算委員会、総合健康センター将来構想特別委員会について

ウ 令和7年度の市議会の活動について

(2) 意見交換（テーマ別グループトーク）

3つのテーマごとにグループ（全6グループ）に分かれて、テーマについて意見交換を行った。

テーマ1 多文化共生のあり方を考えよう

テーマ2 子育てしやすい袋井市とは

テーマ3 自然環境を守るための持続可能な取組

4 皆さんのご意見とアンケート結果

別紙のとおり

5 総括

今回の意見交換では、3つのテーマについて、参加者の皆さんが日常生活の中で日頃感じていること、課題と思っていることなど、さらには課題解決のための提案について意見を出し合い、グループごとに発表をすることで参加者の中で共有していただくことができ、有意義な時間を持つことができました。

アンケート結果からは、「参加してよかった」との回答を多くいただいておりますが、「グループワークの中で意見をまとめるのが難しかった」とのご意見もあったことから、今後の開催においては、よりよい意見交換の進め方を検討してまいります。

今回の意見交換会のテーマは、各常任委員会の担当分野であることから、いただいたご意見は、全議員で共有することで、常任委員会での調査・研究や、今後の議会活動に生かしてまいります。その結果は、来年度のフッピートークで報告をさせていただく予定です。

また、皆さんのご意見は、市の担当課にも情報提供し、今後の事業において参考としていただきます。

フッピートーク 2025 で出された意見

<意見のまとめについて>

グループごとに皆さんの意見をまとめた「意見聴取報告書」から、グループで出された意見を掲載します。

「現状の良いところ」「課題」「課題に対しての提案」について、それぞれに共通するカテゴリーで分類しました。

<テーマ1>

多文化共生のあり方を考えよう

1 参加者

グループ1：市民5人、議員3人、グループ2：市民4人、議員3人

2 皆さんの意見

現状の良いところ

①人に関すること

- ・差別的な感情が比較的少ない。
- ・海外ルーツの方が「日本は優しい国だ」と感じてくれている。
- ・日本で働く海外ルーツの方々は、まじめで誠実な方が多いと感じられる
- ・本市は外国人住民の割合が比較的高く、そのうち約6割が定住者であり、地域に根付いて暮らしていること。
- ・農業、介護、建設といった分野で外国人材が重要な役割を担っており、地域の産業を支える不可欠な存在になっている。
- ・日本側からの一方的な指導にとどまらず、「日本の良い文化を学んでもらっている」という前向きな捉え方も示され、多文化共生の基礎となる相互尊重の意識が見られる

②支援などに関すること

- ・やさしい日本語講座など、市民が海外ルーツの方と関わる機会がある。
- ・やさしい日本語教室の取り組みが充実している。
- ・市窓口では外国語対応が進められており、ゴミの分別、日本語教育、「やさしい日本語」での案内など、生活に直結する分野で支援が行われている。
- ・ベトナム友好協会が積極的に活動しており、文化交流や相互理解の場として一定の役割を果たしている。

課題

① 知ること（ルール、文化など）

- ・日本人が海外に触れたり興味を持ったりする機会が不足している。
- ・海外のルール等を知ることが重要だが、多国籍化していてすべてを理解できない。
- ・海外ルーツの方が日本文化・ルール・マナーを学ぶ機会が十分ではない。
- ・互いの文化的背景を理解する場が少ない。
- ・今後、海外ルーツの住民が増えた際に文化摩擦が強まり、現在の良い関係が維持できるか不安がある。
- ・一部では外国人に対するマイナスイメージがあり、偏見や先入観が交流の妨げになっていること。
- ・最初に声をかけるハードルが高く、日本側も外国人側も「話しかけてよいのか迷う」「日本になじんでいない方には恐怖感もある」といった心理的距離があること。
- ・情報が十分に伝わらず、誤解が生じることがあること（言語の違いだけでなく、伝え方・受け取り方の違いも含む）。
- ・ゴミの分別ルールが徹底されておらず、生活ルールの違いからトラブルの原因となっていること。
- ・騒音や自転車のマナーをめぐるトラブルが発生しており、近隣との関係が悪化する場合があること。

② 参加、交流に関すること

- ・日常的に交流できる場や機会が少ない。
- ・助け合いに参加できる機会を求める声がある。
- ・言語の壁により、海外ルーツの方が地域活動に参加しにくく、独自コミュニティを形成してしまう。
- ・海外ルーツの方の意見がどの程度政策に反映されているかが見えにくい。
- ・自治会の積極性が十分ではない。
- ・自治会になかなか加入してもらえず、防災や地域活動への参画が進みにくいこと。
- ・地域のイベントに外国人住民の参加が少なく、交流の機会が十分に持てていないこと。

課題に対しての提案

① 知ること（ルール、文化など）

- ・幼児期から多文化共生に関する教育を行う。
- ・海外のルールや文化について学ぶ機会をつくる。

- ・日本人自身のモラル向上にも取り組む。
- ・海外ルーツの方が日本文化・ルール・マナーを学べる機会を増やす。
- ・文化が「壊れる」ことを恐れるのではなく、文化は変化していくものだと捉える姿勢を育む。
- ・日本人、海外ルーツの方々など一括りで判断するのではなく、個々に相違があることを再認識する。
- ・ハガキや回覧板など、紙媒体も活用した「プッシュ型」の情報提供を行い、受け身の外国人住民にも確実に情報が届くよう工夫すること。
- ・スマートフォンアプリの活用により、翻訳機能で言語の壁を補いながら、異文化の情報を相互に発信・共有できるようにすること。

②参加、交流に関すること

<イベントなど>

- ・日本人・海外ルーツの方を問わず、共に楽しめるイベントを開催する。
- ・一緒に料理を作るなど、協働できる活動を増やす。
- ・地域でバザーなどの交流イベントを開催し、気軽に顔を合わせて友好を深められる機会を増やすこと。
- ・企業に対して、多言語によるイベント告知を依頼し、職場を通じた情報伝達と参加促進を図ること。
- ・スポーツや食事など、言語が多少違っていても一緒に楽しめる活動からつながりを持つようにすること。
- ・海外ルーツの方がイベント等のリーダーを担えるようにする。

<地域での取組>

- ・自治会やまちづくり協議会のあり方を見直し、多文化共生に対応した地域組織を整える。
- ・「歩み寄りの心が大切」との意見があり、日本人側がまず挨拶や声かけを心がけるなど、日常の中で小さな一歩を積み重ねること。

<コーディネート>

- ・日本人と外国人をつなぐ専用の窓口（コーディネーター・相談窓口など）を設け、困りごとやイベント情報の橋渡しを行うこと。
- ・各国・各地域ごとに信頼されている「キーマン」を探し、リーダー役となってもらいながら、外国人同士、日本人と外国人をつなぐネットワークを形成していくこと。

<テーマ2>

子育てしやすい袋井市とは

1 参加者

グループ3：市民4人、議員3人、グループ4：市民5人、議員3人

2 皆さんの意見

現状の良いところ

①市民、地域のつながりに関すること

- ・若い世代が多く、子育てに前向きな市民が多い。
- ・地域のつながりが良い。

②子育て環境に関すること

- ・待機児童ゼロの達成など、保育環境の改善
- ・短時間・柔軟な預かりニーズに対応する仕組みの存在
- ・子育て関連施設・公共施設の充実（カンガルーのぽっけ、さわやかアリーナ、メロープラザなど）
- ・子育て支援センターが多種多様
- ・こども若者家庭センターが設立された。
- ・浅羽中学校がとてもきれい。
- ・地産地消を意識した「おいしい給食」（循環型の取組）
- ・女性・移住者・シングルマザーが挑戦しやすい創業支援環境（定住に繋がる）
- ・駅南の開発がすばらしい。
- ・東西の交通インフラが良い。
- ・自然が豊かである。

課 題

①子どもの「関係性・居場所」に関すること

- ・小規模校における人間関係の固定化（学年1クラスのため、6年間同じクラスメイト）
- ・学校が窮屈に感じる。
- ・放課後・長期休暇中の居場所不足
- ・フリースクール等の選択肢不足
- ・不登校支援が不足している（子供の居場所、大人の相談場所など）。

- ・「気にかけてくれる大人」と出会えない子どもの存在
- ・数値で把握しにくい「気づき・見守り」をどう制度に組み込むか。

②生活リズム・実務的支援の不足に関すること

- ・学童保育における給食未対応
- ・長期休暇中の支援の薄さ
- ・中高生の勉強するスペース・施設が少ない。
- ・交通の便が悪い（公共サービスは使いづらい→結局自家用車による送迎）。

③世代・主体間の分断に関すること

- ・高校生、若者世代との接点不足
- ・子育て世代と地域事業者との接続不足

④情報提供・行政の動き方に関すること

- ・補助金や助成制度の情報が分かりにくい。
- ・子ども食堂等の意欲はあるが、（袋井市の）情報・（応援してくれる企業の）接点・（助成金や補助金などの）制度が分かりにくい。
- ・他自治体より情報が遅いという印象が市民の不満につながっている。
- ・行政情報と民間情報の分断
- ・行政は主催よりも「つなぎ役」としての役割が重要である。

課題に対しての提案

①居場所に関すること

- ・待機児童ゼロ後の次の課題は「孤立させない仕組み」
- ・不登校の子を持つ親御さんの居場所づくり（思いを共有）
- ・未然防止のアプローチ
- ・つながる居場所が必要

②サービス、施設に関すること

- ・追加負担を前提とした選択制サービスの導入検討
- ・こども若者家庭センターの拡充
- ・移動手段における行政区域の制限緩和

③地域連携、民間連携に関すること

- ・学童保育への給食（弁当）導入に向けた民間連携モデルの検討
- ・長期休暇限定の「地域連携型学童（公民館・コミセン・民間施設活用）」
- ・タクシー事業者との連携及び担い手不足の解消

④情報発信に関すること

- ・支援情報の伝達手段・展開方法の検証
- ・メローネっと LINE 等を活用した「分野別・選択型情報配信」
- ・行政が“選別”するのではなく、一定基準のもとで民間情報も掲載

<テーマ3>

自然環境を守るための持続可能な取組

1 参加者

グループ5：市民5人、議員3人、グループ6：市民5人、議員3人

2 皆さんの意見

現状の良いところ

①自然環境・公園に関すること

- ・遠州三山等自然に恵まれている。
- ・三川（山）～同笠（海）、自然環境が豊富である。
- ・三川、宇刈、小笠山の森林が多く、豊かなところ。
- ・自然が豊かである（子どもの頃の思い出がある）。
- ・空が広く見えるところ。
- ・スタバ付近の池回りの景観が良い。散歩している人がいて憩いの場になっている。
- ・公園が多くあり、使用されている。

②人や団体の活動等に関すること

- ・自治会内の、コミュニケーションを取れる場面が多い。
- ・人が優しい
- ・比較的、田舎なので自治会120戸の名前と顔がわかる。
- ・様々な環境活動団体があって、いろんな活動をしている。
- ・久野城のコスモスプロジェクトなど、袋井市は自然に配慮していると感じる。
- ・資源循環の取り組みが良い。

③その他の良いところ

- ・御厨駅から周辺の会社までの間、電動通勤バスが運行されている。

課 題

①自然環境に関する課題

- ・自然環境の維持と開発行為は相反する。結果として自然災害が発生している。
- ・自然体験や遊び場が減っている。
- ・自然災害が心配（地震、豪雨）

- ・自然がずいぶんなくなってきた。蛍の幼虫を流したがいつかない。
- ・年々自然が減少している。
- ・外来生物が多く生息するようになった。
- ・草刈りをするのも、良くない面もある。
- ・道路の木の枝を切りすぎて枝木になっている。
- ・耕作放棄地が多い。増えているのでは。
- ・太田川ダムの影響で鮎が少なくなっている。
- ・夏場、暑くて使用したくない公園がある。
- ・住宅街は緑が少ない。

②環境保護等への対策について

- ・小笠山の自然を残したい。
- ・自然の問題に対する対応が見えてこない（見える化、PRが必要）。
- ・自然を守る施策には何があるか。施策を立てて進んでいるのか。
- ・温暖化対策の取り組み状況が見えない。
- ・袋井に合った自然エネルギーは何か（大東には風力発電がある）。
- ・ミツバチが減っている。これを機に生物の大切さ、自然の大切さを伝えたい。

③子どもや子育て世代に関すること

- ・子どもが自然の中でいきいきと遊べる場所がほしい。
- ・子どもが集まる学校の周囲は、特に自然を気遣ってほしい。
- ・子どもたちに自然の保護どう伝えていくのか。
- ・子育て世代の関心を引く企画してほしい。市が支援する仕組みがほしい。

④その他の環境問題に関する課題

- ・自家用車中心の社会は変えられるか。自転車、電動車を推進する。
- ・街灯が明るすぎる（光公害）。

課題に対しての提案

①どのようにして自然を守っていくか

- ・区域を決めて自然を残す部分と開発を進める部分を決める。
- ・役割の明確化⇒人間と自然の住み分けが大切である。
- ・人と自然の共生、共存
- ・自然環境が保つことが出来れば、生物が生存できる。（特にホタル）

- ・子どもがいきいきと自然の中で遊べる、自然に触れる場・機会をつくる。
- ・日陰の少ない公園には背丈の大きい木を植える。
- ・崖崩れは草木が生えていない場所で起きやすい、草刈り・伐採のやりすぎも良くない。場所を見極めてきれいにする。
- ・自然環境の保全の取組として養蜂があげられた。
- ・人とミツバチが共存できるよう公園や河川等に巣箱を設置する。
(ミツバチは花の受粉を助け、植物の繁殖を支える生物として、自然環境における重要な役割を担っている。もともと地域にいるミツバチの生態を尊重し、うまく人間が操ることで保全効果を引き出せる。)

②どのようにして自然を伝えていくか

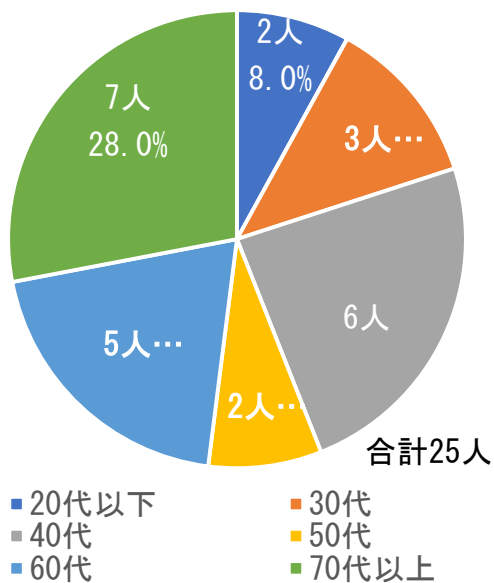
- ・袋井の課題をデータベース化し見える化する。
- ・自然と触れ合う機会を創出する。
- ・温暖化対策の達成状況と課題が見える化・市民と共有し、若い世代に伝える仕組みが必要。

令和8年1月24日開催

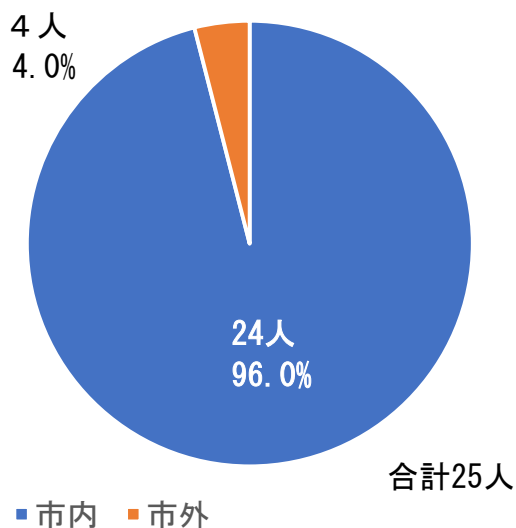
「フッピートーク2025～市議会議員と未来の袋井市を語ろう～」 アンケート結果

【参加者27人中25人（92.6%）が回答】

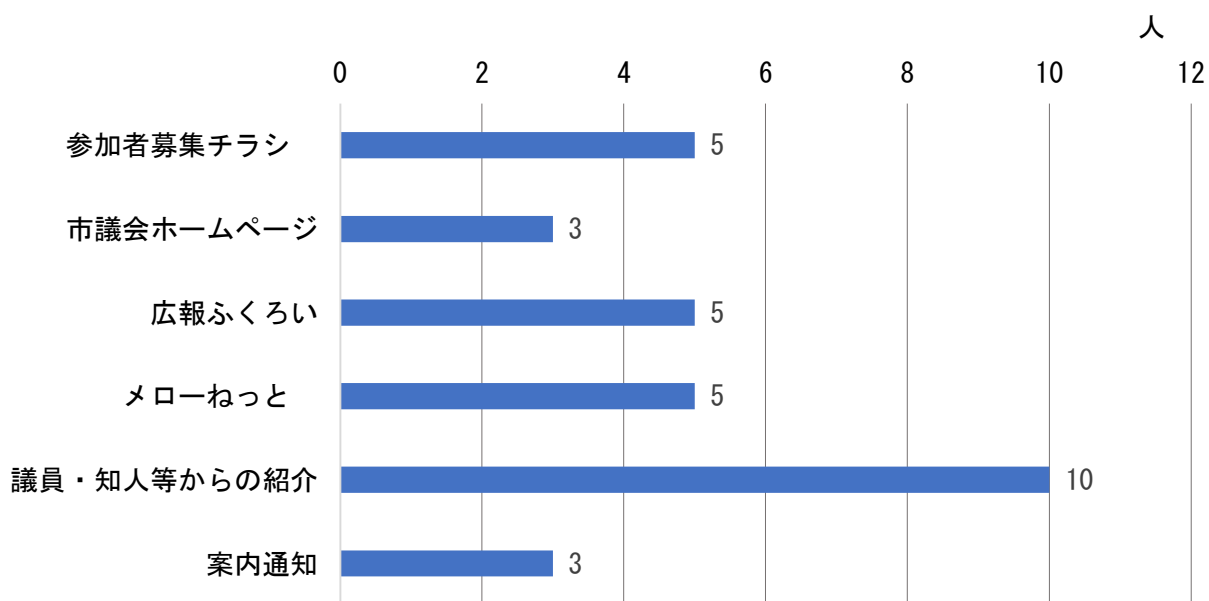
問1 あなたの年齢は



問2 あなたのお住まいは

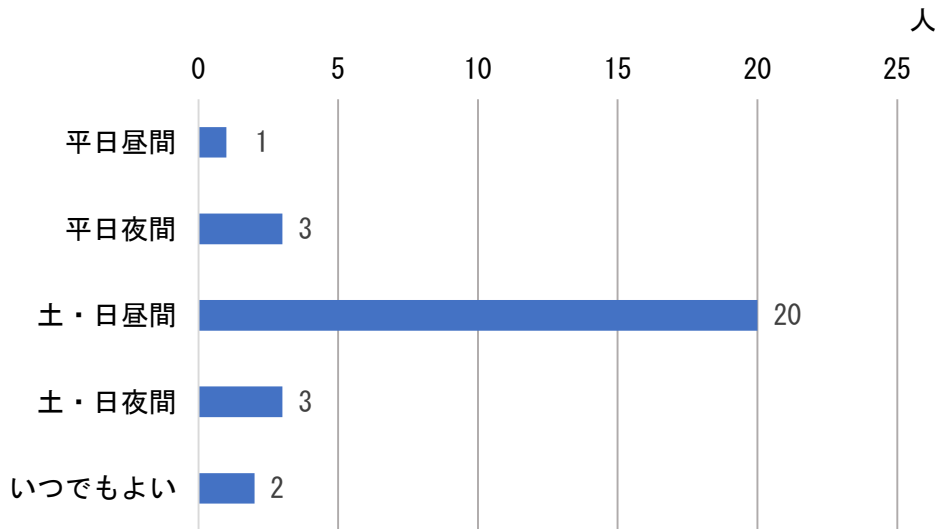


問3 今回の意見交換会を何でお知りになりましたか。【複数回答あり】



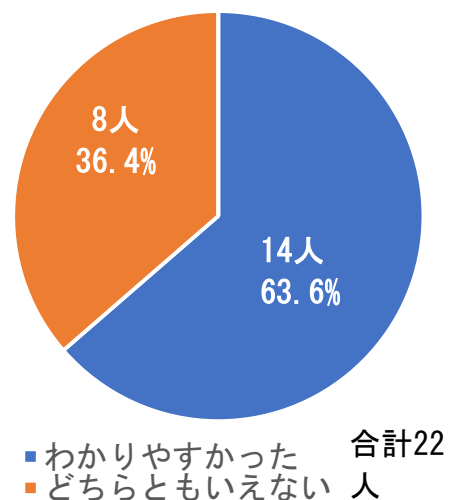
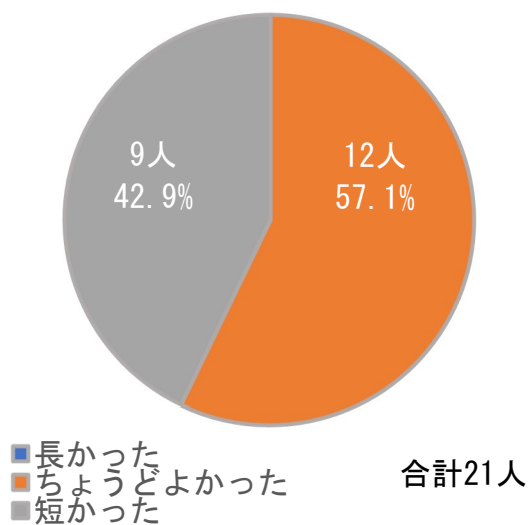
問4 今回の「フッピートーク2024」をどのようにお感じになりましたか。

(1) 開催日程（時間帯）は、いつがよいと思いますか。【複数回答あり】



(2) 開催時間はいかがでしたか。

(3) 議会報告の内容はいかがでしたか。

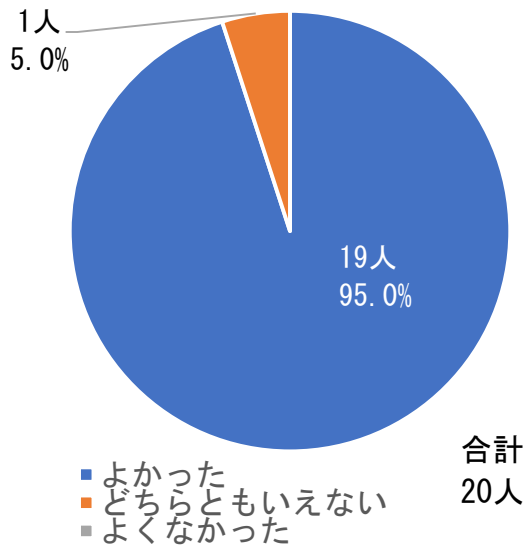


(3) についての自由意見（意見交換会全体についてのご意見も含む）

- ・ 様々な地域で暮らす様々な年代の方の意見交換することができ、とても興味深い会であった。
- ・ 議員さんの考え方をもっと知りたかった。袋井市の方向性をもっと知りたかった。
- ・ いろんなバックグラウンドの人の話を聞くことができ視野が広がった。
- ・ 参加する前は、どの話題で話ができるのか分からず、一度は参加することをあきらめたが、具体的な例を挙げてもらったので、興味や、自分が体験したことが話せると思い参加することができた。

- ・様々な意見を次に繋げてほしい。
- ・テーマが難しく、なかなかまとめられなかった。発表する人により偏るとおもった。
- ・発表時間が短い。
- ・グループワークでまとめることが難しかったので、もう少し細かくテーマ分けがあってもよかった。

(4) 意見交換（グループワーク）に参加していかがでしたか。



(4)についての自由意見

- ・いろいろな話が聞けてよかった。
- ・袋井市外から移住してきた人の意見が新鮮であった。
- ・皆さんの意見が聞けて参考になった（複数回答）。
- ・仲間がいっぱいいると実感した。
- ・議員の皆さんが話しやすい雰囲気を作ってくれ緊張せずに意見を言うことができた。
- ・袋井市の具体的な課題が見えてよかった。課題は自分ごととして取り込むべきだと思った。
- ・意見交換をできたこともそうだが普段関わることのない市民と交流できてよかった。
- ・時間が短く感じられるほどたくさんの意見がでた。
- ・もう少し話す時間と発表の時間を増やしてほしい。
- ・話をまとめることに苦労した。
- ・もう少し深い話をしたかった。
- ・グループ内でも様々な意見があるので、うまく吸い上げてほしい。

問5 今後、意見交換を行う「テーマ」について、ご希望がありましたらご記入ください。

- ・ 移民受入
- ・ まちづくり（複数回答）
- ・ 地域部活動
- ・ 気候変動
- ・ 温暖化対策
- ・ エネルギーサイクルについて
- ・ 公園を利用しやすくするための樹木の植え方（暑さ対策）
- ・ 街路樹の育て方（保護、景観、日陰を作って歩けるように）

問6 フッピートーク全般についてのご意見、ご提案がありましたらご記入ください。

- ・ 年代に関わらず、袋井のことを考えていると思った。
- ・ 市外から参加した。フッピートークは参考になった。
- ・ グループワークの時間は、グループの意見をまとめるのが難しかったので、もう少し長くしてほしい。
- ・ 具体的な課題解決について、もっと時間をさいて話し合いをしたかった。
- ・ 発表に時間を取るより自由に話し合える時間が長い方がよいと思った。
- ・ この会のことをもっと多くの人に知っていただくといいと思った。
- ・ 様々な形で報告される場があるとよいと思う。
- ・ 定期的に参加して、市民や市議会の話を知りたいと思った。
- ・ 結果をどう次につなげるか。その場限りの再生産ではもったいない。